

県民歓声、健闘に拍手

宇都宮 観戦イベント500人

「いけ」「がんばれ」。アメリカを相手に2-5で惜しくも敗れた「なでしこジャパン」だったが、宇都宮市のオリオンスクエアで行われたパブリックビューイングには約500人の市民や出勤途中のサラリーマン、学生らが詰め掛け、

世界一を懸けて戦う選手たちを最後まで熱い声援を送った。前半16分までに4点のリードを許す展開だったが、応援は最後まで鳴りやむことはなかった。前半27分、大儀見優季(27)が独得の「ワンゴール」で1点を返すと、会場はこの日一番の大きな歓声に包まれた。

後半は1点を奪ったが、直後に取り返されるなど一進一退。そのまま試合終了のこの反撃役になってくれ

と、激闘を終えた選手たちに温かな拍手が送られた。宇都宮市清原台3丁目、吉岡昌彦さん(70)は「世界の2位もすばらしい。日本国民としてうれしい」と話した。本県出身のMF安藤梢(32)と鮫島彩(28)の両選手にも「けがで戦列を離れた安藤選手の気持ちをなでしこに、チームは決勝まで行ってほしい」と語り、疲れさまで言いたい」と語った。

(渡辺和博)

安藤、ベンチから鼓舞

「バンクーバー(カナダ)共同」サッカーの女子ワールドカップ(W杯)カナダ大会で5日、バンクーバーでの決勝で米国に敗れて2連覇を逃した日本代表「なでしこジャパン」のベンチに左足首骨折から再合流した22歳の安藤梢(宇都宮女子高)が、筑波大学院、フランクフルト)の姿があった。

川澄奈穂美(INAC神戸)は「少しでも離れたいたのが寂しかった」と言い、岩清水梓(日テレ)は「アンチ(安藤選手)が来てほっとした」と笑顔で歓迎していた。

とで再合流が実現した。安藤はプレーできないものの「なでしこらしく、ひた向きに戦う。ベンチの選手も、スタッフも全員で戦いたい」と語っていたが、米国の勢いにのみ込まれた。

最後のW杯 澤「悔いなし」 6度目出場の今大会が自身最後のW杯となった澤が、前半33分から出場して決勝の舞台に立った。序盤から打ちのめされた味方を鼓舞するように走り回った。後半7分のFKでは近いサイドに走り込み、マークしていた相手のオウンゴールを誘った。

後半34分からは同じように最後のW杯となる米国のワンバックが出場。米プロリーグ時代の同僚にドリブルで突破されると後方から容赦なくタックルし、警告も受けた。

エース大儀見 意地のゴール

劣勢の日本に勇気をもたらす大儀見の一撃だった。0-4の前半27分、川澄からパスを受けると巧みに反転して左足を振った。「決定機に対しての準備を怠らなければ、必然的に入る。準備は一度も怠ったことはない」と言葉通り、自身最初のチャンスで左隅に意地のゴールを突き刺した。

だが、存在感が高まるほどマークの激しさも増す。「(相手守備陣から)厳しく来られている」と漏らし、27歳で臨んだ大会も2得点に終わった。



なでしこジャパン2点目のゴールで、歓喜に沸く観衆たち。6日午前9時10分、宇都宮市江野町のオリオンスクエア



表彰式で笑顔の安藤(右)ら日本イレブン。5日、バンクーバー